

第 27 回地域審議会（3/24～3/28 開催）

■八代市住民自治によるまちづくり行動計画後期計画の方向性について（対象：全地域）

八代市住民自治によるまちづくり行動計画 後期計画は、「住民自治によるまちづくり」基本指針に基づき、平成 26 年度策定に向け取り組んでいる。後期計画では、地域協議会の具体的な支援についての検討を、関係課や行政内部で構成する住民自治推進庁内検討会議にて進めていくことにしている。今回は、その方向性について報告するものである。

地域	委員質問・意見	事務局
八代	<p>資料 1－3「策定の主旨」において、線で見え消しがしてあるが、これは時間の経過により表現が合わなくなったところだけの訂正・変更なのか、内容に関して付け加えたところがあるのか、またフィールドワークを行っての変更かを尋ねたい。</p>	<p>時間の経過により表現が合わなくなった箇所の修正を行っている。また、フィールドワークをして若干付け加えている箇所もある。</p>
	<p>後期計画の施策において、「人材の発掘・養成」という項目がある。人材バンクのような形で、市も人材育成をしているかと思うが、その人材が活用されていないのではないかと思う。プライバシーの問題があり難しいとは思いますが、もう一度登録されている人材の人的要素、例えば培われたキャリアなどでリストアップして、いい人材を育成し、その育った人材をリーダー的な立場でもっと活用していくというような方向性を検討すべきではないかと思う。プライバシーの問題があり難しいとは思いますが、市をよくしたいと考えるのであれば、時にはその垣根を少しは超えてみて、本当に政策に適した、いい人材を積極的に導入する必要があると思う。</p>	
	<p>八代地域独自のまちづくりを軸に、千丁、鏡、坂本、東陽、泉地域が持っているものを連携させて活性化させていく、つまり地域を活性化させながら、市全体を活性化していくという方向性も考えてほしい。</p>	

八代	<p>市全体の連携というものは是非必要だと思うが、今の時点では、各校区内で人材バンクのようなものを作っていきべきではないかと思う。</p>	
	<p>市にある人材リストを校区ごとで拾い出せるようになれば、その校区にどんな人がいるか分かり、お世話する人の目にも入るので、リストの出し方を工夫すれば、今あるものでも十分役立つのではないかと思う。</p>	
	<p>旧泉村では九州脊梁地帯の自然保護を目的とした自然保護団体があり、独自でインストラクターの養成を行い、その活動の中で他地域との連携も行っていましたが、合併によりいつの間にか消滅しかけていると聞いている。せっかく育成してきた人たちが沈んでしまっている。他地域との連携の中で、こうした人たちを活用することで、八代市全体がまた元気になると思う。</p>	
	<p>まちづくり計画（地域別計画）の策定の進捗状況が「未実施」となっているが、まちづくり計画という大きな計画がないのであれば、役員が変わることで実施している内容まで変わってしまうということになると思われる。</p> <p>計画と各地域の住民との連携がいかにあっただかということが一番大事であり、連携を図るために配置される地域アドバイザーや地域コーディネーターといった担当職員の役割が非常に大きい。行政と住民との連携というものは、間に入る方の働きかけによって、随分変わってくる。その間に入るのは議会だと思う。行政と議会と住民自治という3つの動きが今あまり動いていないため、計画策定が未実施ということになっていると思う。</p>	
	<p>人材リストについても、リストに挙がるか挙がらないかはある基準があり、その基準をどう設けるかは非常に難しいと思われる。今ある人材バンクの登録者が、現実的にどれだけ活用されているは重要だと思う。</p>	

坂本	他の地域での懸案事項はどういったものがあるのか。	2～3年で役員交代になるのでそのときどうするかと、運営費について意見が出ている。
	一定の補助金が地域協議会に出るが、その後はどうなるのか。	何かしらとは検討しているが厳しい状況。
千丁	文化活動際で千丁文化会館（パトリア千丁）を使う場合、昨年までは使用料全額免除だったが、主催がまちづくり協議会へ変わった今年度は免除とならなかった。協議会が主催となったことで、有料となるのは納得できない。	昨年までは生涯学習課主催という事で全額減免となっていたようである。敬老会も合併前は全額免除であったが、現在は1/2減免となっている。同様の取り扱いという事でご理解いただきたい。また同様の問題は聞き及んでおり、庁内の会議においても議題として取り上げ、今後どのようにしていくか検討してみる。
	自主財源確保のためのゴミステーションとは、どのような取り組みなのか。	東陽校区において、資源回収の際、ペットボトル・生きビンを集め、回収業者に引き取ってもらい、その収益をまちづくり協議会へ入れている。収益は考えていたより少額のようなようである。
	以前の説明では、「自主財源の確保は全校区に住民自治協議会が立ち上がってから取り組む事とする」と聞いていたが、既に取り組まれているのか。	東陽校区が暫定的に取り組んでいるだけである。
	消防団の見守り活動は何処の校区で行われているのか。	代陽校区で行われており、交通安全を啓発する時に消防団が法被を着て街頭に立った事がある。また、火事の際は交通安全協会で行う通行の安全を確保する等検討が行われている。
	消防団は勤め人が多く多忙である。あまり団員の負担とならないようお願いしたい。	
鏡	できれば会議資料は、事前に配布していただきたい。そうしないと、率直な意見と言っても、なかなか難しい。住民自治の推進については、市長に対し、答申をしてきたというのが地域審議会の役割でもある。他の誰よりも、この件については、地域審議会の委員が理解しておかないといけない。理解、協力することで、地域協議会も安心して住民自治を推進していける。住民自治は始まったばかりなので、資料もわかりやすく作成していただき、事前に配布していただくようお願いしたい。	事前に配布できるよう調整していく。
	後期計画と前期計画の比較の中で、地域まちづくり計画の中にある地域づくりの具体例の説明があったが、私たちほとんどの鏡町住民は、住民自治とは何かをわかっていないと思う。その状況	これまでやっていただいている取り組みは、これはそのままということでおっしゃるとおりです。資料1－1「地域協議会設立後の主な取り組み」の中の一例を紹介しますと、設立後に構成団体の新たな取り組みということで、消防

鏡	<p>で進められているということに少し危惧を感じる。この地域審議会の委員の中にも、設立準備委員会の委員長さんがいますが、率直に伺いますが、住民自治が進められていくことで、良くなること、どこがメリットなのか分からない。別段今までやっていることと変わらないのではないかと。</p>	<p>団の交通指導による見守り活動が行われている校区がある。今まではそれぞれの団でそれぞれの活動を行っておられたのが、ひとつの組織になったことで団体の連携が出来てきたというのが、メリットではないかと考えている。</p>
	<p>連携の他にどんなメリットがあるのか。</p>	<p>スケールメリットもあるし、これから少子高齢化による、役員のなり手不足等の問題に地域で取り組むこともできる。</p>
	<p>委員である私も住民自治についてあまり理解していないが、他の住民の人はもっと難しいのではないかと思う。</p>	<p>設立準備委員会の中で検討され、名称については「鏡まちづくり協議会(案)」にしようと、またスローガンでやはり鏡地域独自のものは何であろうかと検討され、「明るく 元気で 明日(あした)につなぐ もやいのまち鏡」となった。鏡町は以前から「もやい」の町ということで取り組まれてきた。この「もやい」の精神、助け合いの精神をより強固なものとして築き上げていければと思うている。</p>
	<p>結局、横のつながりはとても強くなるということでもいいのか。現在は、市の職員に任せている部分が多いので、それを住民同士で助け合っていくということでもいいのだろうか。</p>	
	<p>事務局が言う「もやい」の精神は、皆さんよく知っていると思うが、それをどう具体的にやるかということが見えない。もっと違う方法で周知してもらえないかということをお願いしたい。</p>	<p>今後「鏡地域協議会」が設立される前に住民を対象とした住民説明会が開催される。その他、鏡支所だよりによる周知、各区においては総会時に資料を配り、区長さんによる説明があるので、これらによる周知を徹底していくことを基本としたい。</p>
	<p>「鏡地域まちづくり協議会」の組織構成で、4つの部会がある。構成員として代議員というものがあるが、代議員はどの会議に出ることになるのか。各部会それぞれの代議員ということなのか、それとも総会の代議員なのか。総会というのは、どういうメンバーが入ることになるのか教えてほしい。</p>	<p>総会の代議員構成は、組織図にあるように、区の代表者である各区長、部会の構成団体から1名ずつ、各地域の代表者で協議会の最高表決機関である総会の代議員として出席いただくことになる。</p>
	<p>全体で何人程度になるのか。</p>	<p>今のところ、約80名を予定している。</p>
	<p>80名という人数は、鏡町住民の意見を十分反映できる構成なのだろうか。</p>	<p>どのような組織にするか、区長をはじめとした43名の設立準備委員会を設けて検討してきた。設立準備委員会は、組織役員部会、事業計画・予算部会、規約部会の3つの部会で編成され、約4回の会議を重ねた。このうち組織役員部会で、より多くの住民の意見を反映できるよう組織の形について検討し、案を作成した。</p>

鏡	80名で住民の意見が反映できるのか。少ないように感じる。もっと広範囲にできないのだろうか。	<p>代議員が少ないのではないかという件は、ご意見として伺います。「鏡まちづくり協議会」は、鏡町にお住まいの皆さんの会なので、代議員が少ないという声が多く上がれば、総会を通じて変えることは可能。少なければ、増やすというふうに皆さんで変えてもらえればと思う。</p> <p>他の校区でも代議員が少ないという声が上がった校区がある。事例を挙げると、町内会で意見の集約を諮り、町内会の代表者に託すという手法を実施されているところもある。そのような手法を使って住民全員が総会に参加しなくても、意見を反映できるようにできる。</p>
	代議員は80名ということで。議会と一緒に一般参加できるような環境づくりを考えていただき、みんなで参加できる環境づくりをしていただきたい。	
	住民自治基本条例の進捗状況はどうなっているのか。	自治基本条例は住民自治とはまったく別物であるが、説明させていただく。
	別物といっても、それがあっての住民自治ではないのか。別物なら作る必要がないのではないのか。	自治基本条例は住民自治を進める中で、基となる条例と申しますか、こういうものが必要なのではないかと検討を進めており、今後、市民の皆様のご意見を伺いながら制定していく方向で進めている。
泉	第一・第二小学校校区にある「安全を守る会」は、小中学校がバスによる通勤となった場合、どのように活動していけばよいか。	第一小校区はバスを降りてから通学があるので、住民自治（まちづくり協議会）と一緒に活動をするようにしている。

■平成25年度第1回八代市地域公共交通会議について（対象：全地域）

先の第26回地域審議会において各地域から委員を選出いただいたところであることから、その会議の内容等について報告をするものである。

地域	委員	事務局
八代	ここでいう公共交通とは「まちバス」や「ゆめバス」のことを言っているのか。	「ゆめバス」はゆめタウンが支援をしているので、市の補助には入っていないが、市街地循環バスである「まちバス」、「みなバス」を含んだところでの路線バスを対象としている。

坂本	事業者への補助金の額はどのように決定するのか。	キロ単価に延長を掛けて経費を出し、売り上げを差し引いた額（赤字分）を補助金として補填している。
	回送バスに乗せてもらうことはできないのか。	回送バスに乗客を乗せることはできない。
	利用者の意見は集めているのか	タクシー会社やバス会社を通じて意見を聞いている。今後、利用形態や要望等お聞きする場を設けたいと思う。
	停留所以外で止めてもらうことはできるか。	乗合バスでは、急勾配の箇所ではフリー乗降区間を設けているところもある。路線バスでは行っていない。
千丁	資料 2 別紙の中で補助対象経費に記載がある「モビリティマネジメント」とは何か。	運賃を含めた交通運行計画等の取り組みのこと。今回の地域公共交通調査事業は、収支の計算等にかかる経費も補助対象となる。
	路線バスの業者数はひとつなのか。	八代市内に関しては、ほとんどを産交バスが運行し、麻生交通が泉の方を運行している。事業者数としては2社であるが、補助金は、ほとんど産交バスに支払っている。乗合タクシーについては、地域ごと・路線ごとに運行しており、入札によって、現在は3社が運行している。坂本地域が神園交通と大和タクシーで、東陽・泉地域が昭和タクシーとなっている。
鏡	バスの補助金について、金額が上がっているのは、燃料費が上がったからだけなのか。	バスの補助金については、燃料費の高騰、キロ単価というものが毎年設定されている。そのキロ単価が上昇したことが大きな要因になるが、改編後、色々見直しを行っていることも影響している。例えば、中心部に直行でいけるバス路線がほしいという声に応じて、延伸したバス路線もあるので、路線延長距離が増えたこと、キロ単価×距離で補助金が決定されるので、要望が増えると、どうしても補助金額も増える。
	県の補助金が低いのはなぜなのか。	県内の自治体のほとんどがバス補助金を出している。県は各自治体の前年度実績に応じて補助金を配分している。八代市は改編して若干補助金額が下がったということもある。ただし、今回は増えている。
	路線バス「宮原線」の運行時刻変更についてJRのダイヤ改正に伴うとあるが、この基準となるものは何なのか。5分だけ乗り継ぎの時間がとってあるが、バスが遅れたときのことも考え、もう少し時間が必要なのではないか。	5分が長いのか、短いかということですが、トイレ休憩等の時間を見込んでいます。八代駅で養護学校の生徒が利用するために時間を延ばしたという実績もあるが、今のところ、5分あれば十分との産交バスからの意見があり、事業者の意向によりこの時間となっている。
	電車に間に合わなければ意味が無く、何のための乗り継ぎ時間だということになりかねないので、お尋ねした次第である。	苦情等のご意見があれば、見直しを検討したい。

鏡	バスの利用者が減少している理由を教えてください。	循環バスの利用者は増加しているが、周辺部の路線が減少している。もちろん人口減も理由の一つであるが、若干乗り継ぎが不便という状況もある。
	資料2の別紙にある地域公共交通調査事業のスケジュールについて説明してほしい。	地域公共交通調査事業は、1年間をかけて地域の状況を調べるということである。最初の年度は公共交通の空白地域などの調査を実施し、次の年度に、調査結果を基に計画を立て、その後に見直しを実施するという。利用者がいない空白地域に路線を引いても、赤字となり、大切な税金を使用することになりかねないので、慎重に調査を行っていきたい。

■平成26年度～平成28年度実施計画の報告について（対象：全地域）

八代市総合計画後期基本計画（平成25年度～平成29年度）の基本的施策を計画的かつ効率的に実現するために、具体的な事業や施策の内容を明らかにした八代市総合計画後期基本計画【実施計画書】の報告を行うもの。

地域	委員	事務局
八代	実施計画の9ページに「健やかに暮らせるまちづくり」とあり、5か年で取り組む施策に健康増進の支援とある。現在健康体操などの取り組みが行われているが、健康づくりというものは、それを行った人自身が努力した成果が見えるようになることが重要だと考える。前の自分より良くなったと自己評価できるようなシステムを作っていけば、努力することに対する喜びが出てくる。行政側からこれをしようというだけではなく、住民自身が、自分が前より良くなったのは自分が努力したからだと思えるような評価制度の構築を市全体で取り組んでもらいたい。	
	介護現場は人材難といわれ、定着しない、若い人に魅力を感じてもらえない状況にある。スタッフが、利用者自身が元気になったという実感をもっていただけるように関わりを持つことが、やりがいにつながり、それを通じて利用者、利用者の家族もさらに頑張っていけるのではないかと思う。利用者自身が自己努力によってもっと良くなるように努力しようと意欲を持てるように、介護現場のスタッフが努力することができれば、働くものとしての	

八代	魅力につながり、目標もできると思う。介護保険は必要なときは使わなければいけないが、そうでないときはそれを使わないことによって喜びを得るといような方向性で、様々な部署部局の連携の中で取組みがなされればよいと考える。	
	「健やかに暮らせるまちづくり」を目指すところがあるが、これが抽象的にならないように、今後学んだことを施策に具体的に活かしていただきたい。	
千丁	市の待機児童は何人いるのか。	現在、待機児童はいない。
	千丁校区の居住者が、鏡校区の保育園等に預けているという話を聞いたことがある。	通勤中に子どもを送迎するため、居住校区とは違う校区の園に預けている場合がある。
	一つの園に集中しないよう、市が調整してもよいのではないかと。	市のホームページや広報誌で募集案内等を行っており、今後も同様の形で広報を続けていく。
	千丁校区では高齢者の交通事故が続いている。高齢者の交通事故対策も行ってほしい。	実施計画では、子どもと高齢者の交通事故防止を優先に、交通安全教室等の事業を実施するとともに、高齢者の増加を意識した交通安全施設の充実も図ることになっている。
小学校など、校区外からも通学できるのか。	基本的に申請書を提出してもらい、各種要件を基に審査が行われる。中学校も同様であるが、要件は厳しくなっている。	
鏡	概要のところ、「地域の特性を活かしたまちづくり方針」というものがある。これは実施計画の方ではどうなっているのか。	これはあくまでも方針であって、基本計画とは少し性格が異なることで、実施計画の中ではまとめていない。この中に入ってきているという部分になる。
	この基本計画と住民自治とは何か関わりはあるのか。	住民自治に関しても総合計画の中で位置づけがあっており、「市民と行政がともに歩むために」というところから出てきている。実施計画で見ると、55ページの主な事業という項目の中で「住民自治推進事業」ということで「地域協議会の設置及び運営支援に加え、住民自治によるまちづくりを推進するための周知や啓発活動を行う。」と明記してある。 住民自治関係施設整備事業も関係がある。校区公民館がまちづくり協議会の事務所機能を主に担っているということで、協議会事務局の整備と言うことで位置づけている。
	農林水産業の振興を目的に、フードバレー推進課が今度出来ませんが、簡単に言うと「フードバレー」とはどんな意味なのか。	アメリカのIT産業が集積しているところを指す「シリコンバレー」が基になっている。八代地域は元々農業が盛んな場所であったため、農林産業の振興を図ることで、六次産業化や新たな企業誘致を重点的に取り組んで、食で地域の活性化を図るためのスローガンのような言葉で「フードバレー」としている。

■八代市組織再編について（対象：全地域）

平成 26 年 4 月 1 日付けの組織再編の内容について、また、平成 27 年度に予定している組織再編の基本方針について報告をするもの。

地域	委員	事務局
八代	「営農支援室」は、農業だけが対象なのか。水産業は含まれないのか。	農業関係の相談ということになる。
	八代市は水産業も大事なので、いかに育成していくかは重要だと思う。営農支援室は農業だけということだが、水産業の相談・支援というものも検討していただきたい。	関連で、来年度フードバレー推進課が来年度新設される。これは農林水産業の振興を目標に、それぞれの課が一次産業の推進に向けて取り組み、横の連携をより深めていくということが、課ができた1つの意味でもあるので、各課で連携しながらやっていくことになると思う。
千丁	フードバレー構想の場所は鏡なのか。	フードバレー構想とは、食品などの研究開発機関や企業等の集積を目指すもので、鏡町の熊本県農業研究センターい業研究所に隣接した場所に、試験研究・相談対応の施設が建設される予定。市としては、連携して業務を進めていく。
	臨時給付金の対象人数は何人なのか。	まだ対象者数は分からない。6月頃分かる予定。
東陽	地域連携医療室を市立病院に置くとのことだが、この「地域」というのは、坂本・東陽・泉を含む全地域を指しているのか、それとも宮地地域だけなのか。	地域医療連携ということで、例えば市立病院の患者さん方をどこの病院に移すのか等を検討する機関である。
	地域医療連携という名称なので、全地域と思ったが、市立病院内の患者だけが対象なのか。	市立病院の患者の中には、熊本総合病院や労災病院から転院してくる人もいる。しかし、入院期間があるため、市立病院からまた別の病院に移る必要がある。その場合に、地域の医療機関と連携する機関である。
	市全般を指していると思った。ここで連携を取って会議を開くとかそういうことではないのか。	そういうことではない。
	合併して9年になるが、この市町村合併は全国で約 3,500 あったものを、それぞれ合併してスケールメリットであるとか、無駄を省くなど色々な面で国が推進してきたと考えている。八代市の中で行政区が 379 あるが、合併当初とほとんど変わっていないと思う。情報網も発達してきて、山間地になれば限界集落もあり、集落という形をなさない地域も出てきていると思う。そのあたり	支所、出張所、公民館の機能、それぞれの機能をどういうふうにしていくか、ということを考えていきながら、また、地域のエリアを今までの支所のエリアだけでなく、広範囲のエリアを考えていきながら取り組んでいく。これから検討を進めていきながら、地域審議会でも報告させていただきたい。

	はどう今後推進していくのか尋ねたい。	
東陽	行政区を減らすには予算は要らない。今、小さい集落では役員の選出が難しくなり、地域活動をするにしても、合併して活動したほうが良いと思っている地区も多いと考える。しかし合併してもメリットがない。いわゆる行政支援が今のところない。そこで、今市政協力員の報酬を払っているが、合併した場合に、例えば2地区が1地区に合併した場合、均等割り分の額が1地区分しか要らなくなる。そこで、それを3年間くらい地区活動助成金として支援してやるような考え方があれば、3年後にはその額が市としてはいらなくなる。市の予算も軽減され、地域も知恵を出していく。その辺の考え方が見えてこない。行政はこれまで通りすることが一番簡単であるが、その辺のところを考えていけばいいのではないかと考えるが、どうか。	先ほど住民自治について説明した市民活動支援課が担当ではあるが、そのようなことも含めて、担当課に伝えていきながら検討したい。
泉	名前が頻繁に変わるため、覚えるのが大変である。	
	八代市立病院医局の「地域医療連携室」は誠に素晴らしいことと思うが、足を運ぶ人がいるのか？	大きな病院（総合病院、労災病院等）は、手術をしたらすぐ出なければならなくなり、その受け皿として、また結核病棟の維持のためにも必要と考える。

■平成 25 年度携帯電話等エリア整備事業の事業繰り越しについて（対象：坂本地区、泉地域）

坂本地区の「日光地区」、泉地域の「水梨地区」における携帯電話等エリア整備事業（基地局施設整備工事）において、再入札まで実施したものの入札不調となり、年度内における適正な工期確保が困難となったため、平成 26 年度に事業繰り越しをする旨報告するもの。

地域	委員	事務局
坂本	意見等なし	
泉	意見等なし	

■パトリア千丁温泉施設の休館について（対象：千丁地域）

パトリア千丁温泉施設の温泉井戸において不具合が生じたため、井戸の調査を行っている。調査の結果次第では長期の休館が予想されることから、状況を報告するもの。

地域	委員	事務局
千丁	休館は過去何回位あったのか	長期に亘る休館は、今回を含め 3 回程度。10 年前にも同様の井戸故障があり、4 ヶ月 程度休館した。約 3 年前は打たせ湯天井パネルの落下があり、10 ヶ月程度休館。その他、設備機器の点検・整備等で 1 週間程度休館することがある。
	塩湯の性質が原因なのか。	それもある。井戸内上部鋼管の錆が酷く、施設設備も劣化が早いと思われる。
	引き受け先の候補はすでにあるのか。	市として正式に募集したわけではないが、平成 21 年度に民営化計画を策定する際に市場化テストということで、民営化の調査を行っている。その際に 3 人が手を挙げている。ただし調査は平成 21 年度なので、今回募集をかけて、応じる法人があるかは実際にやってみなければ分からない。
	再開することが調査の目的なのか。	改修するためにどのくらい費用負担が必要か、現在積算中であり、結果が出てから方向性を決める。現場とすれば再開に向け調査を行っている。
	休館を知らない人もいるので、しっかり広報を行ってほしい。	チケット払い戻し等の広報も必要なので、改めて告知を行う。
	井戸の故障原因は劣化だけなのか。崩壊もあるのか。	上部のケーシング（鋼管）に劣化があったが、結果報告が出ないと何ともいえない。

■泉地域における投票区の統合について（対象：泉地域）

平成 25 年度当初に泉地域における投票区の統合を実施。平成 25 年度中に執行された選挙を通して、統合による影響を検証した内容を報告するもの。

地域	委員	事務局
泉	泉地域での投票率が 90% を下回った点を懸念している。	
	期日前投票所を支所から振興センター泉に変更し、期日前投票が上昇したと考えられるのか。	変更によって、期日前投票が上昇したと考えられる。支所の立地条件や振興センターが乗合バスの停留所になっている点から、振興センターの方が期日前投票所として、より機能したと考えられる。
	前回の審議会では五家荘地区の投票所再編の件で心配したが、期日前投票所の設置されたことにより、補われたと感じている。	

■ケーブルテレビ事業における安否確認サービスについて（対象：坂本地区）

ケーブルテレビ事業の付加サービスとして実施している、ひとり暮らし高齢者の安否確認サービスの機器が故障し、現在サービスを停止している。ケーブルテレビの各種機器設備は耐用年数を迎えているものが多く、今後、多方面にわたる故障が予想されるが、全てに対応するのは難しい。安否確認装置も耐用年数を経過しており、今回、修理をした場合でも、早い時期に他の部分の原因で再度故障する確率が高い。今後のサービスのあり方について委員のご意見を伺うもの。

地域	委員	事務局
坂本	緊急通報サービスは一人暮らしの高齢者が対象ということだが、高齢者であれば夫婦でも将来的対象に出来ないか。	現在、対象は一人暮らしの高齢者と重度障害者となっている。対象者拡大の話を健康福祉部にておく。
	現在利用している方に意見を聞いて、緊急通報サービスに移行する方向で検討してみてもどうか。	利用者には説明を行う。
	民生委員にもシステムの詳しい説明をしてもらいたい。	担当課にその旨伝える。
	設置するときに対応年数が5年ということは分かっていたはずなので、早急に対応してほしい。	緊急通報サービスに移行する方向で進めたい。

■東陽地域・泉地域の安否確認事業の廃止について（対象：東陽地域、泉地域）

東陽・泉校区で実施していた「高齢者等在宅安否確認装置貸与事業」を終了したことを報告するもの。本事業は合併後、システム機器が使用できる限りとして独自に運用していた。今回関連機器の不具合により使用できなくなったため廃止する。これまでの利用者及びその保障人に対しては、全員個別に説明し、替わって「八代市安心相談確保事業実施要綱」に基づく独居老人の安心確保を案内する。

地域	委員	事務局
東陽	東陽地域では何件利用者がいたのか。	14件。そのうち新しい緊急通報装置の申請が2件あっている。
泉	新しい事業の申請は個人が行うものなのか。	個人でも出来るが、地域包括支援センター・在宅介護支援センターからの代行申請も可能。
	民生委員の利用は出来るのか。	高齢の方からの申請ということを考慮して、課内で協議する。 民生委員総会、地域福祉推進協議会の中で説明をして、委員に働きかけをしたい。